

令和6年度 第2回鴻臚館跡整備検討委員会 議事録

日時:令和6年10月15日(火) 14:00~17:00

場所:福岡市博物館多目的ルーム

出席者-----

【委員】

・佐藤委員長、坂上委員、池崎委員、岩永委員、包清委員

【福岡県】

・福岡県文化財保護課:杉原氏

・九州歴史資料館文化財調査室:入佐氏

【事務局】

・吉田経済観光文化局理事、白石文化財活用部長、中村史跡整備活用課長、本田係長、岩永

【関係者】

・株式会社修復技術システム 2名、株式会社エスティ環境設計研究所 1名、株式会社トータルメディア 3名

<開会>

報告事項 史跡鴻臚館跡の復元整備について<復元建物>について

- ・委員長から、瓦の葺き方・種類等について質問有り。事務局より説明、概ね了承済。
- ・委員からの質問・意見等なし。説明内容について、了承済。

協議事項 史跡鴻臚館跡の復元整備について<地形>について

委員長

- ・全体図を見たとき、緑の所は芝生で、黄色の所は土系の塗装になるということか。

⇒事務局

- ・北館を出て、しばらくは芝生になるが、傾斜を経ていくと、脱色アスファルトの舗装になる。

⇒委員長

- ・谷部の部分は、色を変えているということか。

⇒事務局

- ・谷部の中も地上表示ではないが、暗めの灰色系の色で中央谷がこの辺に広がっていたことを表現する計画。

⇒委員長

- ・発掘調査の結果から、古代では実際もっと深い谷であることが分かっているが、色で表現するという理解でよいのか。

⇒事務局

- ・よい。

⇒委員長

・南館部分の中央部はどのようになっているのか。

⇒事務局

・赤味がかった脱色アスファルトになる。

⇒委員長

・北館内側とは、違う形状になるということか。

⇒事務局

・はい。

⇒委員長

・色がいくつもあると統一感がないように見えないか。地区によって、舗装の色分けしている例は福岡市内にあるのか。

⇒事務局

・あまり聞いたことがない。

⇒委員長

・平城京などもあまりしてないと思うが。

⇒事務局

・南館部分に関しては、1期も同時に表現しているので、色合いが若干変わってくるような仕上がりになっている。

⇒委員長

・トイレ遺構は、関心持たれる方が多いと思うので、もう少し注目してもらえるようにしてもいいと思う。

・木簡が出土したのは、この部分で間違いないか。

⇒事務局

・はい。トイレ遺構から出土したものに関しては、展示館の方で詳細に説明しているが、確かにトイレ遺構ももう少しクローズアップするという考えもあると思う。

⇒委員長

・谷部の部分の色を変えるのはいいと思うが、他の部分にあまり色を多用すると情報が多くなりすぎて、逆に分かりにくくならないか。

・中央谷は－70cm～1mほどの深さで整備し、実際はもっと深かったというのを表現する箇所は石垣展示の部分になると思うが、安全勾配などを考えて緩やかな石積みを見せるのは、誤った情報になるので、石垣自体は出土したような80度くらいの急勾配にした方がいいと思うが、上端・下端のところは全部表現できないのか。

⇒事務局

・石垣自体は2m50cmの高さになるので、この範囲の中で、全面を表現するのは難しい。

⇒委員長

・石垣は、まだ下まで入っていくのが分かるように表現していただければと思う。

⇒事務局

・石垣の角度の関係は、自然排水できる限界の深さで設計した。ポンプなどで排水する設計にすると故障が起きた時に、安全性が確保できないこともあるので、この深さとなった。

⇒委員長

・このくらいの深さだと東に向かって自然に排水できるということか。

⇒事務局

・この深さなら、今のインフラを使って流せると思う。

⇒委員長

・整備上できなくても、説明版やサインなどでうまく工夫し谷底がもっと深かったことが伝わる上手な見せ方をしていただきたい。

⇒委員

・東側の塀の脇門は、南側だけか。北側もあるのか。

⇒事務局

・脇門は、中央谷を介して南館に連続すると考えているので、基本、北館に関しては南側のみとなる。

⇒委員

・最初の説明にもあったように、東門は、基本的に門で閉めているということか。

⇒事務局

・復元した後は、基本、常時開けている状態で運用しようと考えている。

⇒委員

・東門と脇門も両方とも開けておくということではいいか。

⇒事務局

・はい。東門に関しては、イベント時に一旦閉めて開けるというイベント的な使い方ができないかと事務局側で考えている。

⇒委員

・盛土の傾斜はどのようになるのか。

⇒事務局

・北館エリアについては、若干北側に勾配がつくようなイメージになる。

⇒委員長

・整備塀の素材は、鉄とあるが、図面上で見ると木っぽく見えるものだと思っていいか。

⇒事務局

・鉄素材に木目調の塗装を施す。

⇒委員長

・木の表現になるのであれば、それがいいと思う。その間の縦格子のようなものも木っぽくなるということか。

⇒事務局

・そちらの部分に関しても、木目調の色彩で塗装する。

⇒委員長

・東門の北側に3カ所開口部を付けているが、階段と同じ位置でいいのではないか。

⇒委員

・それだと古代でもそうだったと誤解を招かないか。

⇒委員長

・盛土は完全に現代の物であるため、階段の表現が古代の物でなければいいと思う。

⇒委員

・塀でここまで囲うとは思っていなかったが、確かに隔離施設というのは良く分かる。

・この辺りは桜の季節は出店が並んで、南の方から来た方は鴻臚館の辺りを歩き回るわけだが、ここまで囲うとルートが遮断されるため、不便になって文句が出ないのかと感じた。市民の利用という点から見ると、特別感が出るが不便感が出るのではないかという不安がある。

⇒委員長

・西北と南西の所は、曲がる所の折れは表現しなくていいのか。

⇒委員

・あった方がいいと思う。

⇒委員長

・四隅だけでも柱を立てて、案内する時に、四本の柱の中が全部特別な区画だった、外交使節がここに泊まる迎賓施設があったということを理解していただけるといいと思う。

⇒事務局

・便所遺構のすぐ側は、実際に布掘りが切れて、通用口があった場所になるため、その辺りをどう表現するかも含め再現塀を検討していく中で追加していきたい項目ではあると思う。

⇒委員長

・サイン計画の中で、全体の公園計画と鴻臚館のサインをどうすり合わせるのか、デザインは共通になるため変えないが、鴻臚館の色、説明板の文字の色やシンボルマークを入れるなど検討してもらいたい。

⇒委員

・樹種についてだが、筑紫館に遣新羅が来た時に山松が生えて、そこで、ひぐらしが鳴くと読んだ漢詩がここに鴻臚館があったという根拠になるので、植栽に松が1本もないというのは、どうかと思う。松が全くないというのは、何か意図があるのか。

⇒事務局

・少し離れた堅粕遺跡の方で採れた花粉分析になる。委員のご指摘の通り、松があっても然るべきだと思う。

⇒委員

・砂浜の表現は難しいと聞いたが、北館の北側辺りに松林が広がっていておかしくないし、全体を松で囲ってもいいくらいと思う。

⇒委員長

・坂上委員の言うように、シンボルとして松があつたらいいと思う。

⇒委員

・この整備の範囲は公園エリアとして、24時間オープンなのか。

⇒事務局

・基本的には、都市公園になるので、24時間いつでも入れる場所ということになる。復元設備に合わせて、防犯設備・消防設備という項目も事務局の方で検討している。

⇒委員

・鴻臚館跡に24時間、警備員が常駐するということはないということで間違いないか。

⇒事務局

・24時間の管理者常駐ということはない。警備会社と契約した防犯カメラで見るのかということも含め、今後検討していく必要がある。

⇒委員

・貴重な場所を造っていくわけだが、人のアクセスをコントロールする必要がある。
・中央谷を造成するため敷地全体の排水計画がどうなっているのか。
・歴史公園や通常の公園管理の費用で管理するとなれば、極めて困難ではないかと思う。その辺りも含めて、樹種・植栽もパターンをいくつか検討いただけるとありがたい。

⇒事務局

・雨水処理の問題だが、福岡城の方に流し込む排水計画となっている。
・雨水については近年、線状降水帯等で想定を超えるような量が降る場合があるため、土橋の辺りに、どれだけ水

がきちんと処理できるような施設を入れるかで計画の方が変わっていくかと思うので、その辺りをもう少し検討してから報告したいと思う。

・植物の管理については、芝生も合わせて、整備が終わったら、管理者を置いて、その中で日常的な管理、防犯も含めて、コントロールした上で運営していきたい。

⇒委員

・南館と北館と双子の範囲になっているが、北館の区画塀と門が一段高く囲われているという表現があるので、南館の部分も全体を舗装するのではなくて、周囲の区画塀と門を一段高くするなどして同じような形のものが北館と南館に対になってあったというのが分かるように表現したらいいと思う。

⇒事務局

・北館で予定している基壇の高さが 0.7 尺であるため、20cmが一つ目安になる。

・周りが芝で北館の部分が周りから高くなると思うので、その辺りの段差の許容値というのは、公園側とも今後協議して、改めてご報告したいと思う。

⇒委員長

・今回、北館は一つの時期で整備するという方針でやっているが、南館の方は同じ表現で1期・2期・3期を区別しようと非常に苦労しているという経緯があったように思うが、それ上手に表現して理解していただけるような形になるとよい。

・門を守衛したりする機能があったと思うが、報告書では、どのような性格の建物とされているのか。

⇒事務局

・着到殿(ちゃくとうでん)と記憶している。

⇒委員長

・客観的には、掘立柱建物ということでもいいと思うが、どのような正確な建物か分かるようにしていただきたい。

・石で表現するか、擬木で表現するかとあって、これは説明がなかったが、これはどうするつもりか。

⇒事務局

・石だと少し硬いイメージがある、ただし金属に木質の面を張るとなった時に果たしてそれでいいのかという問題もあって、現在はこの2パターンをご提示の上、委員の皆様からご意見をいただきたい。

⇒委員

・擬木はどんなに精巧な物でも経年劣化があり、観光客からすると、擬木にしか見えない。石なら石で素材として本物が使えた方がいい。木でいくなら、何年か置きに入れ替えることを前提に検討すべきだと思う。

協議事項 体験・活用施設の設置及び展示館の展示リニューアルについて

委員長

・体験・活用施設のコンセプトはあるのか。

⇒事務局

・体験・活用施設は展示館では体験できない体験講座等を実施したいと考えている。

⇒委員長

・いろんな形で市民の方に使ってもらったらいと思う。

・展示館は是非リニューアルお願いしたい。

・包清委員が言われたように展示館と外が一体化して、史跡全体とつながるような感じが望ましい。

⇒事務局

・展示館の南側は地上表示してあるが、ほとんど使われてない状態であるため、今回の地形復元と合わせて、展示館のリニューアルを組み合わせいく必要がある。

⇒委員長

・展示館内の復元建物は、大変評判がいいと思うが、あれを使って、外に広がっていることが分かるように展示を考えていただくとありがたい。

・遺構面まで降りていくことに意義を持たせていると思うが、今回のリニューアル案では階段の下まで降りていく導線は書かれていないが、そのあたりはどう考えているのか。

⇒事務局

・降りていく階段と展示台は残しているので、今後それをどう生かしていくのか検討中である。次回までに、もう少しイメージがわくような平面図が出せると思う。

⇒委員

・鴻臚館シアターというイメージがよく分からない、復元建物に手を入れるのか。

⇒事務局

・復元建物の中を通り抜けて、上に上られる形にする想定。

⇒委員長

・展示館では出土した遺物が見られる。

・2期か3期のどちらかで北館・南館、地形も含めて全体が分かる模型があると良い。

・展示についてはもう少し検討いただければと思う。

・鴻臚館がどう使われていたかというのを説明していただきたい。遺構の説明ではなく、海外の使節が来たり、遣唐使が出発前に宿泊したり、福岡が対外的に開かれた玄関であったことを示すような説明もしていただきたい。

⇒委員長

・史跡と一体となった展示施設であり、今回、体験・活用施設もそういう機能を一部担えると思うので、上手に展示館と体験・活用施設を使って、相乗効果を創出できると良い。

⇒九州歴史資料館

・当時の外国の方をお迎えした施設で、現在、福岡市にはかなり外国の方も来られているので、そういった方も意識した整備をやっていただきたい。

・中央谷の部分は、表現や排水をもう少し考えて、土系の舗装にすると色々検討されたい。

・防犯の問題とか防災公園であることも合わせて考えると、照明計画とか管理施設の計画も合わせていただけると安心するのではないかなと思うので、今後ブラッシュアップできたら良いかなと思う。

・展示館のゾーニングのポイントが抽象的なので、その辺りをもう少し考えてこの施設がどういう施設だったのか、どういう役割だったのかというのが理解できるような内容にしていきたいと思う。

⇒委員長

・具体的な中身についてはまだこれからということだと思うが、今日色んなご意見を出していただいたので、それを踏まえて形にしていければと思う。

<閉会>